

『自己肯定感の教科書』



中島輝著  
SB クリエイティブ／2019 年  
ISBN 9784797399240

「自己肯定感とは、あなたの人生を支える軸となるエネルギーです」(本書 p.31 より抜粋)。最近なんだか上手くいかない、と思う人は、そんな"エネルギー"が不足しているのかも？自分を知り、認めていくために、具体的な方法を示しながら、そっと背中を支えてくれるような 1 冊。

立命館大学図書館

『大本営参謀の情報戦記：情報なき国家の悲劇』



堀栄三著  
文藝春秋／1996 年  
ISBN 9784167274023

本書は、大本営参謀を務めた筆者が太平洋戦争中の情報戦を分析し、教訓を後世に伝えた記録です。80 年前の題材ながら、情報リテラシーが重要な現代にも通じる示唆を与える一冊です。

龍谷大学図書館

『銃・病原体・鉄：一万三〇〇〇年にわたる人類史の謎 上下巻』



ジャレド・ダイヤモンド著；倉骨彰訳  
草思社／2000 年

ISBN 上巻 9784794210050 下巻 9784794210067  
ニューギニアを訪れた著者は現地の人から質問されました。「白人は様々なものを持っている。でも自分たちは持っていない。何故なのでしょう？」このとても単純かつ核心をつく問いに対して、徹底的に向き合って答えたのがこの大著です。学生の皆さん、何故だと思いませんか？

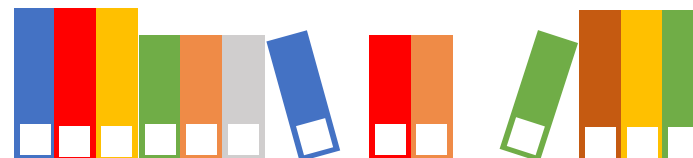
『滋賀県大学図書館のおすすめ本』 Vol. 4

- 掲載の図書は必ずしも各大学で所蔵しているわけではありません。まずは所属大学の図書館でご確認ください。

発 行：滋賀県大学図書館連絡会

発行日：2025 年 3 月

# 滋賀県大学図書館のおすすめ本



Vol.4

滋賀県内の大学・短期大学図書館が  
大学生にお薦めするブックリストです。  
このリストを通して、新しい世界に触れ  
てみませんか？



滋賀医科大学附属図書館

『たどしい人類滅亡計画 反出生主義をめぐる物語』

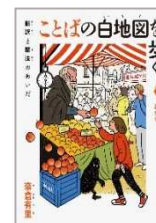


品田遊著  
イースト・プレス／2021 年  
ISBN 9784781620046

「そもそも人間が生まれることは“善”なのか？」を疑う「反出生主義」が本書のテーマです。人類を滅亡させるべきかを 10 人の登場人物が話し合うという一見とんでもないお話ですが、哲学の重要なテーマ=生と死・道徳に関する様々な議論に触れて楽しめるポップな本となっています。

滋賀県立大学図書情報センター

『ことばの白地図を歩く：翻訳と魔法のあいだ』



奈倉有里著  
創元社／2023 年  
ISBN 9784422930992

「新しく言語を学ぶって、難しいな…」と感じたときに、そっと背中を押してくれる 1 冊。ゲームを進めるような形式で、語学の学び方から翻訳の世界へと引き込まれていきます。翻訳家である著者の体験談を交えた、ことばや物事の考え方に触れてみませんか。

## 滋賀短期大学図書館

### 『歴史がわかる 今とつながる対立の世界史図鑑』

かみゆ歴史編集部編著  
西東社／2024 年  
ISBN 9784791633029



現在も世界の各地で紛争や軍事侵攻などが続いています。本書では古代から現代までの世界の対立がわかりやすく解説されています。過去の対立から、現在の対立・関係を読みとってみませんか。

## 滋賀大学附属図書館

### 『バッタを倒すぜアフリカで』（光文社新書）

前野ウルド浩太郎著  
光文社／2024 年  
ISBN 9784334102906



『バッタを倒しにアフリカへ』の続編にあたる本書では、深刻な農業被害をもたらすサバクトビバッタの生態を研究する研究者が、軽妙な語り口で研究や海外調査のエピソードを紹介する。一つ一つの内容が本当に面白く、表紙も前著に引き続きインパクト大なので、ぜひ自分で確認を。

## 滋賀文教短期大学図書館

### 『スマホ社会と紙の本』

高橋文夫著  
論創社／2024 年  
ISBN 9784846023683



デジタルやネットの発達により、人々と本との関わり方が大きく変わってきました。便利だけど画一化されたデジタルメディアと、個性や独自性を持つ活字メディア。著者の読書遍歴を元に、紙の本が持つ魅力やその役割を見直し、両方のメディアが併存できる道を探ります。

## 成安造形大学附属図書館

### 『バナナの皮はなぜすべるのか？』

黒木夏美著  
筑摩書房／2018 年  
ISBN 9784480434876



バナナギャグの起源にはじまり各国の事例、文壇に進出するバナナの皮、実際にバナナの皮で滑った事件など、バナナの皮の文化史を真摯に論じています。人はバナナの皮でここまで論述できるのか。できます。図書館を使えば、きっと・・・（司書は頑張らせていただきます！）

## 聖泉大学図書館

### 『神様のカルテ』

夏川草介著  
小学館／2011 年  
ISBN 9784094086188



信州の小さな病院を舞台に、内科医である主人公・栗原一止が理想と現実の狭間で悩みながら患者一人一人に向き合う姿を描いた物語です。患者とのふれあいを通じ、見えてくる「生」と「死」医療現場に対する「希望」と「現実」をリアルに描写し考えさせられ、心に響く作品です。

## 長浜バイオ大学教育・学術情報センター図書室

### 『G2P-Japan の挑戦：コロナ禍を疾走した研究者たち』

佐藤佳著；詫摩雅子聞き手  
日経サイエンス, 日経 BP マーケティング（発売）／2023 年  
ISBN 9784296119301



2019 年末に出現し世界的な大流行(パンデミック)を引き起こした新型コロナウイルス。この未知のウイルスの謎を解き明かすために、ウイルス研究者である佐藤佳氏らがどのようにして挑んだかが描かれています。研究者を目指す学生さんには、是非とも読んでもらいたい一冊です。

## びわこ学院大学・びわこ学院大学短期大学部図書館

### 『わたし いややねん』

吉村敬子文；松下香佳絵  
偕成社／1980 年  
ISBN 9784034300107



介護を学んでいる学生に薦めたところ「障害者に対し新たな視点を持つ契機になりました。」といった内容の感想をもらい、読者に作り手の心を手渡せたという司書としての幸福感と共に、この絵本の未だ色褪せない魅力を再認識した次第です。関西弁の響きも心地良くお薦めの一冊です。

## びわこ成蹊スポーツ大学図書館

### 『体験格差』（講談社現代新書）

今井悠介著  
講談社／2024 年  
ISBN 9784065353639



『体験格差』は、経済的・家庭環境の違いによる子どもの体験機会の格差を分析し、体験の在り方が将来の選択肢や可能性として考えられる。現在の子ども達を取り巻く環境を考えることも必要であると考えられる。日本初の全国調査の結果から「体験ゼロ」の子ども達の現状がわかる。